

B I C

BUSINESS
INFORMATION
CENTER
AKITA

9

VOL.422
2016 Sep



MANAGEMENT REPORT
[巻頭] 経営探訪
地域発。おらほで挑む
おらほのための
ものづくり
北斗通信工業
株式会社

04 センター活用事例 [case1]

デジタル時代こそ
アナログで
勝負

株式会社
アナログデザイン

05 センター活用事例 [case2]

付加価値の高い
ジェラート作りに
挑戦

株式会社アルク

06 経営さぶりメント

モチベーション理論と
労務管理

欲求階層理論と二要因理論

アスカ人事労務パートナーズ
高橋 一貴

08 プラザ通信

平成28年度 第1回
企業応援・
農商工ファンド
公募結果について

ほか

経営探訪

management report

北斗通信工業株式会社

会長
森 博美
Hiromi Mori

社員に声をかけ、コミュニケーションを大切にする。何気ないやり取りを交わしながら社員を気遣う。

地域発。おらほで挑む
おらほのためのものづくり

大仙市が、防災用にオリジナルのFMラジオを制作した。そのラジオの開発・製造を受託した企業が、大仙市太田町に本社を置く北斗通信工業。東京から秋田に生産拠点を移し、会社設立から41年。秋田への思いを新たに「メイドイン大仙」による、大仙市民のためのラジオ作りに力を注ぐ。

秋田のために役立つ仕事を

大仙市太田と美郷町六郷に事業所をもち、EMS事業（電子機器の受託生産）を手がける「北斗通信工業」。プリント基板実装から完成品組立までを行う一貫生産が強みで、太田事業所ではプリント基板実装、六郷事業所ではユニット組立を担当している。

8月上旬、六郷事業所を尋ねると、納品を間近に控えてラジオの製造がピークを迎えていた。大仙市オリジナルの防災ラジオは、市内に災害が発生、または発生する恐れがある場合、電源を自動的に入れることができる緊急起動信号の送信に対応。また、大仙市のコミュニティFM「FMはなび」から緊急放送を行い、迅速に災害情報・防災情報を発信して被害の軽減を図る。本体はLEDライト付きで、緊急起動信号を受信するとLEDが赤く点灯して緊急を知らせる。停電時は懐中電灯として利用できる

ほか、普段はFMラジオとして聴くことができる。

大仙市は今年度、このラジオを1万台製造し、高齢者や障害のある市民に対して無償貸与するほか、一般の購入希望者には費用の半額を補助する予定。

「東京から秋田に移住して40年以上になった今、秋田のために役立つ仕事がしたいと考えていた。このラジオの製造を通して、大仙市にお返しがしたい」と、完成間近のラジオを眺め、しみじみ話すのは会長の森博美さん。

共に汗を流し、社員を大切にする

森会長は、北海道十勝の出身。獣医師を目指して上京し、大学の畜産学部を卒業。縁あって義父が経営する電気機器メーカー（東京・台東区）に入社。北斗通信工業の前身であるその会社が新たな生産拠点として、昭和50年に旧仙北郡太田町（現大仙市）に新事業所を構え、北斗通信工業を設立した。

当時の肩書きは専務。秋田に移住し、新事業所を軌道に乗せる役割を担った。「十勝生まれだから秋田の雪や寒さは平気だったが、地域独特の方言や習慣が分からず苦労した」と振り返る。「言葉でうまくコミュニケーションできなくとも、思いや姿勢は“背中”から伝わるはず。そう考えて、自分から製造の現場に入るとにかく懸命に働いた。社員と一緒に汗を流し、働きぶりや実行力を見てもらうことで信頼関係を築いていった」。日に日に地元採用の社員たちと打ち解け、「言葉や文化など、いろいろ教えてもらった」と昔を懐かしむ。

経営者となってからは、社員を大切にし、社員の暮らしを守ることを第一に考えてきた。「どんなに大変な時でも、社員たちは一生懸命働いてついてきてくれた。自分の儲けだけ追求する経営だったら、みんな辞めてしまっていただろう。人を大切にすることで信頼が生まれ、利益が生まれ、社員の安定した暮らしにつながる。『社員を大切にする』というポリシーは一貫して変わらない」

その思いは今年6月、社長に就任した長男・圭一郎氏がしっかり受け継いでいる。

大仙発のモデルケースを目指す

平成13年には、本社を東京から大仙市太田に移転。秋田から日本のものづくりを支えることに誇りをもってきた。

一時期、東南アジアなどでの海外生産シフトが加速したが、そうした変化に揺らぐことなく、開発・設計、部品調達、製造設計、量産、販売まで、きめ細やかに顧客のニーズに添えてきた。その長年の経験・実績、技術が認められ、今回手がけることになった防災ラジオ。「これはまさに、おらほがつくる、おらほのラジオ。地元企業として絶対いいものにしなければ」と意欲的に取り組んできた。

大仙市が防災ラジオを開発したきっかけは、5年前の東日本大震災。広域にわたり長期間停電が続くなか、被災地で重宝された情報源がラジオだった。大仙市内全域に防災無線を設置した場合、莫大な費用がかかるが、コミュニティFMを活用したラジオでの情報発信は費用を大幅に抑えられるうえ、大仙市に特化した災害・防災情報を地域の隅々にまで届けられる。電池で動かせるので停電時も安心だ。

大仙市が進める行政によるオリジナルのラジオづくりは、県内外の行政からも注目を集めており、森会長によると完成前にもかかわらず、既に問い合わせが数件入っているという。大仙市発のこの取り組みが全国に広がる可能性もあり、森会長は「今回のラジオづくりの経験を今後活かし、雇用を拡大して、地域にさらに利益を還元できるように頑張りたい」と燃えている。



北斗通信工業株式会社

本社 太田事業所 〒019-1603 大仙市太田町中里字二十町239-1
TEL.0187-88-1634 FAX.0187-88-1357

六郷事業所 〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字小安門207
TEL.0187-84-3707 FAX.0187-86-7585

- 設立/昭和50年
- 事業内容/EMS事業（開発・設計・資材調達、プリント基板実装、製品組立）、一般労働者派遣事業
- 資本金/1,200万円
- 従業員数/130人



- A 太田事業所の第1ライン。クリーム半田印刷機、高速複合型装着機、小型汎用装着機、窒素リフロー炉を保有する。
- B 完成品の梱包作業（六郷事業所）。
- C 大仙市のオリジナル防災ラジオ。前面のスピーカーは「全国花火競技大会」で有名な大仙市らしく花火のデザイン。
- D プリント基板実装。各種電子回路基板の表面実装、フロー挿入、手はんだ付け作業など、試作から量産まで幅広いニーズに対応。
- E 事業所では多くの女性スタッフが活躍している。

センター活用事例 [case1]

株式会社 アナログデザイン

http://www.anlg-dsgn.com

由利本荘市東鮎川字石垣52-3
Tel. 0184-53-4111
Fax. 0184-44-8003

前の職場時代を含め、通信機器や通信システムの設計に長年携わってきた熊谷社長。



ナログ技術を応用した製品の開発・設計を行っている。デジタル化が進む今、アナログ処理を行う技術者は不足傾向。「デジタルの時代にあえてアナログで勝負したら面白いと考え起業した。そもそもデジタルだって、入口と出口はアナログに集約される。アナログだからこそできることはまだまだたくさんある」と熊谷社長。主な業務は、電子制御ユニットやラジオ受信機、高周波通信用信号処理装置、電力増幅器、ケーブルテレビ伝送機器などの設計、開発、試作、製品化、保守点検、修理など。中でもインフラ系が得意で、交通インフラや防災関係、情報伝送関係など幅広い分野を手がけてきた。

デザインの打ち合わせ重ねる

こうした技術が認められ、依頼が寄せられた今回のラジオ開発。約1年前から設計を進め、試作を繰り返してきた。外観については当センターのデザイン相談員に助言を求めた。デザインや色ばかりでなく、使い勝手などのアドバイスも受けた。

「設計・製造に配慮したアドバイスをもらい、製品づくりに役に立った。秋田県内には産業デザイナーが少ないので貴重な機会になった」。

ボタンの数を減らしてシンプルに。あくまでも使い勝手の良さを追求。イヤホンジャックは、簡単に交換可能な構造にして壊れた場合の修理費を抑えられるよう考慮した。

メーカーでは、コンフォートラジオを医療用ベッドや病室のテレビ台に備え付けて商品化する予定。「将来的には入院患者さんのみならず、1回数時間かかる点滴や透析を受ける患者さんや、自宅で介護を必要とする方にも使ってもらえたら」と期待する。



株式会社アナログデザイン

医療用ベッドに搭載するラジオの開発を受託し、製品化。アナログ技術を生かし、さまざまな分野に挑戦している。

館内共聴に接続して聞くラジオ

「アナログデザイン」は、医療用ベッドに搭載するラジオを設計・開発。初回生産の製品が完成したばかりの商品名は「コンフォートラジオ」で、病院内のケーブルテレビの館内共聴に端子を接続してラジオを聞く仕組み。ラジオ自体にスピーカーはなく、聴く際はイヤホンを使用する。熊谷仁社長は「入院ベッドの傍にはプリペイドカード式のテレビはあるが、備え付けラジオは見たことがない。ラジオを聴くことが患者さんの癒しになればうれしい」と話す。

アナログ技術で社会に貢献

アナログデザインの設立は平成26年。撤退した誘致企業の技術者3人で立ち上げた。「アナログ高周波技術で社会に貢献する新事業の創出」をモットーに掲げ、ア

センター活用事例 [case2]

株式会社アルク

http://alk-sakura.co.jp

仙北市角館町川原町13-10
Tel. 0187-55-5241 Fax. 0187-55-5221
[地場産食堂] 仙北市田沢湖小松字羽根ヶ台630-1 Tel. 0187-52-4649
[お食事処 古来堂 青柳家店] 仙北市角館町表町下丁3 Tel. 0187-52-8015

小松谷果樹園のリンゴを使ったギャバ入りリンゴゼラート試作品。



付加価値の高いゼラート作り挑戦



株式会社アルク

者や障害者でも食べやすく、栄養のあるものを」とリンゴのゼラート作りを思いついた。そこに栄養機能を高めようとギャバを加えることに。ギャバは無味無臭で、リンゴの風味を損なわない。また、ギャバ入りゼラートは極めて珍しく、話題性と栄養の両面で付加価値の高い商品を目指している。当初は「高齢者や障害者に向けた機能性食品(冷菓)の開発及び販路開拓」をテーマに取り組んだこの事業。ところが、今年2月に東京で行われた商談会にリンゴゼラートを出品したところ、首都圏のホテルや商社から引き合いがあった。試作段階のため本契約には至ってはいないが、思わぬ方面からの反応に手応えを感じた。

期待膨らむゼラート作り

話題性、栄養と並び、もう1つははずせないポイントが、県産食材を使うこと。「地場産」を前面に出し、差別化を図る。「県産の食材はたくさんある。味やコストを踏まえ、どの食材による商品化が可能か試しながら、生産農家と交渉するなど仕入れルートを確認していききたい」と千葉専務。

そもそも小松谷果樹園との付き合いは5年前、雪害を受けた農家を応援しようとリンゴの販売を買って出たことから始まった。こうした縁もあって取り組んだゼラート作り。農家応援や六次産業化、果実や野菜の規格外品・未利用部分活用など、さまざまな面で期待が膨らむ。

アルクは、仙北市で「お食事処古来堂 青柳家店」や「地場産食堂」、秋田ふるさと村内の土産店「さくら庵」を営むほか、食品加工所や製麺工場をもつ。中でも冷凍加工した県産カボチャ、県産インゲン、県産キヌサヤは、県内の学校給食に使われ好評を博している。

あきた農商工応援ファンドを利用して県産食材を使ったゼラート作りに取り組んでいる。

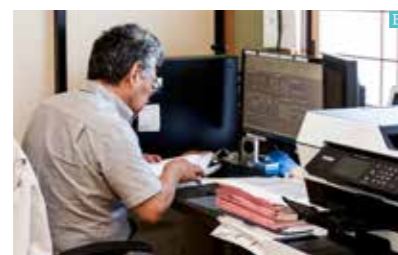
さまざまな食材で試作

試作品の第1弾はギャバ入りリンゴゼラート。開発を始めたのは、農商工ファンドに採択された昨年2月で、以前から付き合いのあった小松谷果樹園(横手市)の規格外のリンゴを使用した。さらに、天然アミノ酸の1種「ギャバ」を加えて栄養機能に優れたゼラートに仕上げた。現在は、リンゴ以外にもブルーベリーやカボチャ、甘酒など、秋田県産のさまざまな食材で試作を続行。助成期間の来年2月まで県産食材を使った数種類のゼラートを完成させて、その後、業務用販売する予定でいる。

思わぬ好反応を得る

ゼラートの開発は、同社の千葉文士社長の身内が脳梗塞で倒れ、介護施設に入ったことから「高齢

デジタル時代こそアナログで勝負



A 社内には設計やテストに用いる通信機器があらここらに。
B 熊谷社長を含めた技術者3人の他、設計補助、会計などのスタッフが働く。由利本荘市の本社以外に、さいたま市に営業所がある。

事業概要 産業デザインに関する助言

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言やデザイナーとのマッチング、コーディネートを行います。

あきた企業活性化センター 総務相談グループ
知財・デザインセンター担当
お問い合わせ TEL 018-860-5614



A 武家屋敷・青柳家の敷地内にある、稲庭うどんの店「お食事処古来堂 青柳家店」。
B 仙北市田沢湖小松で営業する「地場産食堂」。「神代カレー」や「田沢湖Bめん」など地元グルメを提供している。

事業概要 あきた農商工応援ファンド事業

農林漁業者と中小企業者等が連携して取り組む県産農林水産物を活用した新商品開発や、その販路開拓などの取組を支援します。

あきた企業活性化センター
設備貸与・研究開発資金担当
お問い合わせ TEL 018-860-5702

モチベーション理論と 労務管理

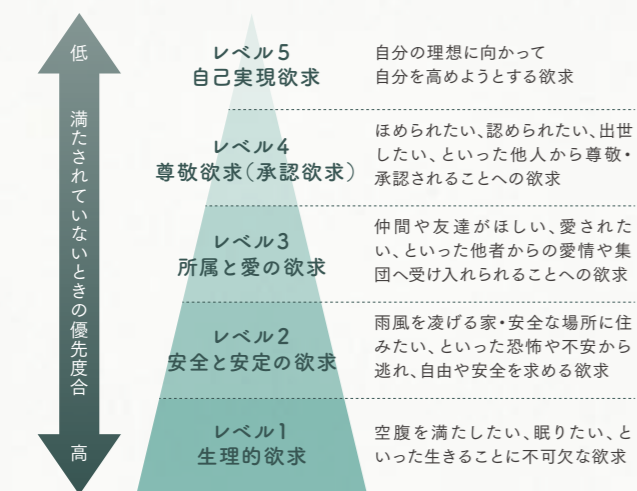
欲求階層理論と 二要因理論

「事業は人なり」とは、経営の神様・松下幸之助氏の言葉として有名です。松下電器は人を造る会社で、あわせて電気製品を造っているそうです。まさしく至言。「経営」とはつまるところ「いかに人と向き合うか」ということではないでしょうか。「事業は人」であるならば、仕事に対する従業員のモチベーションについては、経営上最も重要なテーマのひとつと言えるでしょう。高いモチベーションは従業員の成長を促し、業績アップや職場への良い影響が期待できます。逆にモチベーションが低ければ、生産性の低下や離職の増加などの悪影響を招くことになります。

仕事に対するモチベーションについては100年以上前から様々な研究と実験が行われており、多くの理論が生み出されてきました。まずは、有名な2つの理論を紹介します。

欲求階層理論

アメリカの心理学者・マズローは人間の「欲求」に着目し、「欲求階層理論」という仮説を立てました。その仮説によると、人間の欲求は次の5つのレベルに分けられ、低レベルの欲求が満たされることで次第に高レベルの欲求を求めるようになる、とされています。



誤解されがちですが、このレベル分けは、低いレベルの欲求が完全に満たされないと高いレベルの欲求が生み出されない、ということではありません。欲求がある程度満たされていればより高いレベルの欲求が現れるが、満たされていないときにはより低いレベルの欲求が強くなる、といった優先度合を表しています。

欲求階層理論はその後の欲求に関する研究に大きな影響を与え、多くの理論の基礎とされました。こうした人間の欲求がモチベーションに影響するという考え方は「欲求理論」と呼ばれています。

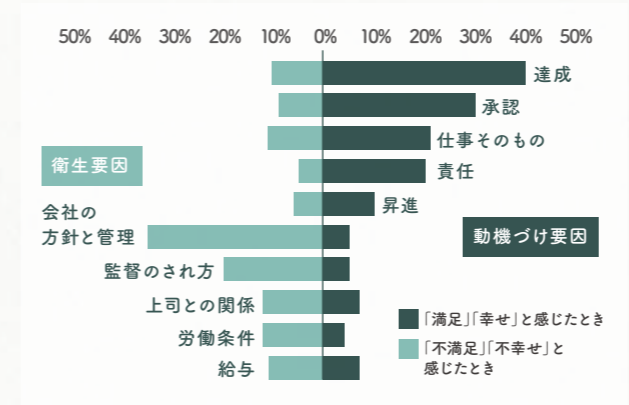
二要因理論

欲求階層理論に代表される欲求理論では、欲求が満たされるとモチベーションが上がり(満足)、満たされないとモチベーションが下がる(不満足)、といった考え方をしていました。言いかえると、「満足」と「不満足」に影響する要因は同じ、ということです。

それに対して心理学者・ハーツバーグは、「満足」を与える要因と「不満足」を与える要因は別のものだ、という

「二要因理論」を示しました。

ハーツバーグは様々な企業に訪問し、労働者と面接して、仕事上「満足、幸せ」と感じた時、「不満足、不幸」と感じたときを思い出してもらい、その理由を尋ねました。その結果を分析し、「満足を与える要因」と「不満足を与える要因」は別のもので、それぞれ人間の行動に異なる影響を与えることを解明しました。そして満足を与える要因を「動機づけ要因」、不満足を与える要因を「衛生要因」と名付け、次のようにまとめました。



動機づけ要因 … 達成、承認、仕事そのもの、責任、昇進など

- これらが満たされると満足するが、満たされなくても不満には思わない
- 満足の反対は不満足ではなく「満足ではない」
- 欲求階層理論のレベル3の一部、4、5を満たすもの

衛生要因 … 会社の方針と管理、監督のされ方、上司との関係、労働条件、給与 など

- これらが満たされても満足はせず、満たされていないと不満になる
- 不満足の反対は満足ではなく「不満足ではない」
- 欲求階層理論のレベル1、2、3の一部を満たすもの

大まかにまとめると、モチベーションを上げる要因と下げる要因は異なっており、満足が高まればモチベーションが上がる、不満足が高まるとモチベーションが下がる、という理論です。

まずは「足元」から！

さて、これらの理論を職場づくりにどのように活かしていくのが肝心です。

自社の課題を検討してみましょう。従業員の定着率が低いとか、職場の雰囲気が悪い、トラブルが多い、ということであれば、「衛生要因」に対する不満を取り除くことが先です。欲求階層理論では、低レベルの欲求が満たされない場合は高レベルの欲求よりも優先される、とされています。せっかく苦勞して仕事に対する満足度を高めようとしても、職場への不満が強ければモチベーションの低下を招いてしまうことになります。「動機づけ要因」に対しては、「衛生要因」に対するマネジメントの体制がある程度整備されていないと、十分なマネジメント効果が得られないのです。

「衛生要因」の中でも突出して「不満を感じる」とされているのが「会社の方針と管理」についてです。従業員を顧みない経営方針や、それに伴わずさんな労務管理は、会社に対する従業員の不信感を招きます。まずは労務管理の「足元」を見直すことから始めましょう。建物も勉強も、職場づくりも同じです。しっかりとした基礎・土台・足元があってこそ、その上に高く積み上げることができるのです。会社に対する不信感を取り払い、従業員が安心して働ける職場づくりをすすめること。これが仕事に対するモチベーションを高める第一歩となります。

今回は会社に対する不信感や不満を取り除く、具体的な労務管理の方法についてお話します。



アスカ人事労務パートナーズ
社会保険労務士
高橋 一貴
Kazutaka Takahashi

【主な職歴】
昭和61年 秋田県 旧・協和町(現・大仙市)生まれ。
茨城大学人文学部にて主に哲学と心理学を研究。卒業後、飲食店への就職を経て社会保険労務士となる。
現在は秋田市で社労士事務所を営む傍ら、平成26年より秋田労働局にて働き方・休み方改善コンサルタントを勤め、ワーク・ライフ・バランスの推進を県内企業へアドバイスしている。
単なる規程集ではない「使える就業規則」の整備、クラウドサービスを活用した労務管理の導入といった、先進的・実用的なコンサルティングを行うことをモットーとしている。

あきた企業活性化センターからのお知らせ

平成28年度 第1回「あきた企業応援ファンド事業」公募結果について

県内の地域資源を活用した新商品開発や販路拡大、大学・公設試験研究機関及び他の企業との共同研究による新商品・高度技術開発や高付加価値化などの取組を助成をする「あきた企業応援ファンド事業」を行っております。

公募状況 18件

公募期間：平成28年5月18日(水)～平成28年6月15日(水)

採択状況 事業採択数 15件

交付決定総額は**70,357千円**です。

中小企業者等支援事業(地域資源型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
1	東北小水力発電(株)	秋田市	高効率クロスフロー水車の研究開発および商品化
2	(株)アナログデザイン	由利本荘市	高周波アナログ技術を活用した、2.3GHz帯無線システムの開発
3	西目機工(株)	由利本荘市	水溶性の研磨剤を使用しない環境にやさしいシリコンウエハ研磨
4	アキモク鉄工(株)	能代市	航空機用洗浄装置の開発及び販路拡大
5	インスペック(株)	仙北市	競合他社に対し5倍の速度を有しフレキシブル基盤(FPC)を連続検査できる高速パターン検査装置の開発
6	漆工芸 利山	湯沢市	川連漆器と大館曲げわっぱとのコラボ新商品による欧州への販路開拓
7	(株)あきた六次会	大館市	独自開発した米代火内鶏(比内地鶏)のブランド力向上と、新商品開発及び販路拡大事業
8	(株)マルイシ食品	北秋田市	地元食材を活用した全く新しいインスタント味噌汁の開発と販路拡大
9	秋田・川連塗 寿次郎	湯沢市	湯沢市産漆を用いた寿次郎ブランド(川連漆器)の開発及び販路拡大
10	秋田銘醸(株)	湯沢市	酒造テクノロジー蔵による新たな「美酒爛漫」ブランド清酒の販路拡大と発酵技術を用いた機能性素材開発及び販路開拓
11	(株)コンヤマ	能代市	2020年 省エネ基準義務化に伴う性能適合商品(木製玄関ドア)の研究・開発
12	(株)斉藤光学製作所	美郷町	次世代パワー半導体向け高効率・高品位研磨加工技術の開発

中小企業者等支援事業(ものづくり一般型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
13	(株)グラノプト	能代市	Magnet-Freeファラデー回転子製品の開発

共同研究助成事業(一般地域型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
14	(有)三國剛俊商店	北秋田市	ゴミ箱のゴミ規定量超過を通知する装置「ゴミ見張りくん」の開発
15	(株)秋田オイルシール	三種町	次世代自動車用ゴムシール部品の実証評価技術の確立

平成28年度 第1回「あきた農商工応援ファンド事業」公募結果について

県内の中小企業者等と農林漁業者が連携し、互いに有するノウハウや技術等を活用して取り組む新商品開発や販路開拓などに対して助成を行う「あきた農商工応援ファンド事業」を行っております。

公募状況 11件

公募期間：平成28年4月27日(水)～6月8日(水)

採択状況 事業採択数 9件

交付決定総額は**45,520千円**です。

農商工連携支援事業

No.	申請者名	申請代表者	市町村名	事業のテーマ
1	(株)IMI	○	大仙市	比内地鶏を使用したチキンハムの開発と販路開拓
	あきた北央農業協同組合		北秋田市	
2	(株)大潟村あきたこまち生産者協会	○	大潟村	秋田県産米を原料としたグルテンフリー食品、機能性表示食品等の開発と販路の開拓
	今盛人		大潟村	
3	(有)三浦米太郎商店	○	にかほ市	地域資源である「ハタハタ」を利用した弁当開発
	佐藤 開		にかほ市	
4	菊地 整	○	藤里町	藤里町産ブラックベリーと低GI値甘味料アガベを活用した新商品開発及び販路開拓
	合同会社三吉フーズ		秋田市	
5	(株)鳥海フォス	○	にかほ市	イチジク(ホワイテゼノア)の機能性を活用した新たな地域特産品の創出と販路開拓
	今野 真治		にかほ市	
6	(株)ワイズキッチン	○	秋田市	あきたシャボンと比内地鶏を使った加工品(テリーヌ、アイスクリーム)開発と販路開拓
	杉淵 渉		北秋田市	
7	日南工業(株)	○	にかほ市	秋田県産「鱈」の低利用魚を使用した魚醤(鱈しょっつる)関連商品の開発と販路開拓
	秋田県漁業協同組合		秋田市	

農商工連携応援団体支援事業

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
8	美郷町商工会	美郷町	青空市場(マルシェ)コーナー設置による農産品・農産加工品・特産品販売促進事業
9	秋田おばこ農業協同組合	大仙市	郷土料理納豆汁で農商工連携を!

第2回募集のお知らせ

※あらかじめ、事業の内容についてご相談ください。

あきた企業応援ファンド

募集期間

平成**28年9月14日(水)**まで

助成率・助成限度額

- 県内の中小企業者等 1/2~3/4 300~1,000万円
- 中小企業支援機関 10/10 500万円

あきた農商工応援ファンド

募集期間

平成**28年9月7日(水)**まで

助成率・助成限度額

- 県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体 4/5 1,000万円
- 連携体を支援する応援団体 10/10 500万円

お問い合わせ

経営支援グループ
設備貸与・研究開発資金担当

TEL 018-860-5702 FAX 018-860-5612

あきた企業活性化センターからのお知らせ

秋田県よろず支援拠点に、新メンバーが加わりました。



コーディネーター **藤原 久良** ふじわら ひさよし
 トータルの生産性向上、品質保証、コストダウン、人材育成
 トータルの生産性向上、5S、品質管理と品質保証およびコストダウン計画策定、人材育成の指導実績等多数あり。ものづくり企業での実務経験38年間のノウハウを活かした実践的な指導には定評がある。

相談無料

経営力強化のためのビジネス講座・相談

貴社の持つ「やる気、能力、可能性」を最大限に引き出すために、秋田県よろず支援拠点の各分野のスペシャリストが1対1で指導します。

- 対象** 秋田県内の中小企業・小規模事業者、創業を予定している方
- 申込方法** HPから申込み用紙をダウンロードし、事前にFAXまたはメールでお申込み下さい。

※1企業様1時間以内とさせていただきますので予めご了承願います。尚、通常相談にて引き続きフォローアップ致します。

【今後の予定】 各月のご案内詳細は毎月発行のチラシ、HPでお知らせいたします。

開催月	講座内容	担当
9月	原価管理活用	樋渡 忍
10月	マーケティング活用	小室 秀幸
11月	IT/WEB活用	宮崎 昌裕
12月	支援機関活用	千蒲 能

チーフコーディネーター **小室 秀幸** こむろ ひでゆき
得意分野 ビジネスモデル構築、ビジネスプラン作成、経営革新、マーケティング、創業

300者(社)以上の中小企業・小規模事業者の方の売り上げ拡大、経営改善、新商品開発、新分野進出、資金繰りなど幅広い相談に対応。相談者の強みを引き出し、それを活かすための指導には定評あり。国の経営革新等認定支援機関として、また、ライフワークとする創業支援でも多くの実績を有し、創業支援セミナー講師としても大活躍。

コーディネーター **樋渡 忍** ひわたし しのぶ
得意分野 原価管理、経営改善、売上拡大

建設分野の経営改善を得意とする。特に原価管理(工程管理・実行予算)による実績多数。丁寧な対応とフォローアップには定評がある。一方、食品製造業、飲食店への原価管理による利益アップ、売上拡大支援にも実績あり。

コーディネーター **千蒲 能** ちがま ちから
得意分野 売上拡大、経営改善、創業

中小企業診断士資格を有し、あきた企業活性化センターの現職職員として総合的な相談窓口の経験が豊富。また金融機関との広いネットワークを有しているほか、資金繰り改善や資金調達に関する相談経験も豊富である。J B I A 認定 I M に登録されており、インキュベーター施設入居者の相談対応実績もある。

コーディネーター **宮崎 昌裕** みやざき まさひろ
得意分野 売上拡大、IT活用、デザイン、広告戦略

チラシや看板、WEBサイト、パッケージなどのデザインを手がけるグラフィックデザイナー。大手流通業のチラシや店内POPの制作を経験。現在はデザインを通じて秋田県内の企業や個人事業主に販売促進やブランディングの提案を行う。WEBやSNSなどのITに関する相談にも応じる。

お問い合わせ 秋田県よろず支援拠点 (あきた企業活性化センター内) TEL 018-860-5605 FAX 018-863-2390

賛助会員広告 | ADVERTISEMENT

主役は「着物に恋した私」です **着物リメイクファッションショー**

日時 **10/10月** [体育の日] 10:00開演
 場所 中仙市民会館 **ドンパル**
 料金 前売券 **500円** | 販売場所 道の駅かみおか一里塚、道の駅十文字、嶽の湯、心軸店舗

先着順 出演モデル募集中! オーダー注文された方優先となります。

主催 / 手作り工房 **心軸** TEL 0187-72-2610
〒019-1702 秋田県大仙市北楯岡字船戸558番地

あきた起業家交流フェスタ2016

そのアイデアが
大きな夢への第一歩。

参加者募集!!

事業PR
人脈づくり
情報交換
商談
経営相談

日時 平成28年 **10月28日** 金 11:00~16:30
 会場 **秋田ビューホテル 4階**

あきたビジネスプランコンテスト
 賞金総額 **100万円**

起業家交流会
 参加資格 秋田県内において事業を営んでいる創業・起業10年未満の方(第二創業含む)
 募集コマ数 **50コマ**
 出展料 **4,000円** (1コマ・懇親会費1名分含む)
※1コマはテーブル1台とイス2脚となります。

募集期間 平成28年 **9/30** 金 まで
※定員になり次第締め切りとなります。

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.bizcon.vt-akita.com/>

主催:あきた起業家交流フェスタ2016実行委員会

総括:公益財団法人 あきた企業活性化センター / 協賛:秋田県信用保証協会
 後援:秋田県・秋田市・秋田県商工会議所連合会・秋田県商工会連合会・秋田県中小企業団体中央会・秋田銀行・北都銀行・秋田県信用組合・秋田信用金庫・羽後信用金庫・日本政策金融公庫 秋田支店

お問い合わせ・お申込み先 〒010-8572 秋田県秋田市山王3-1-1 秋田県庁第二庁舎2階 (公財)あきた企業活性化センター 【総合相談担当】
 TEL 018-860-5610 FAX 018-863-2390 メール joho-info@bic-akita.or.jp 当センターホームページ <http://www.bic-akita.or.jp/>

ほくと外為Webサービスのご案内

ほくと法人IBサービスをご利用いただいている法人・個人事業主のお客様が、会社のパソコンから海外送金や輸入信用状の手続きができるサービスを開始しました。

1 お申し込み方法 ほくと外為Webサービス利用申込書をご記入頂くだけで手続き可能です。
(※ほくと法人IBサービスへのお申込が前提となります)

2 ご利用環境 インターネット接続環境とe-mailアカウントがあれば、ご利用頂けます。
専用ソフトや専用端末の導入は不要です。

3 提供サービス 海外送金(仕向け)と輸入信用状(発行、条件変更)のお取引が利用可能です。

4 利用対象通貨

	海外送金	輸入信用状
U S ド ル	●	●
ユ ー ロ	●	●
スターリング・ポンド	●	×
カナダ・ドル	●	×
オーストラリア・ドル	●	×
スイス・フラン	●	×
ニュージーランド・ドル	●	×
デンマーク・クローネ	●	×
ノルウェー・クローネ	●	×
スウェーデン・クローネ	●	×
香港・ドル	●	×
シンガポール・ドル	●	×
タイ・バーツ	●	×
韓国ウォン	●	×
中国元	●	×
台湾・ドル	●	×
日本円	●	●

5 手数料

- 海外送金手数料は1件あたり3,000円
(窓口振込より1,000円もお得です。)
※上記手数料の他に海外銀行手数料、円為替手数料、組戻手数料、内容変更手数料等がかかる場合がございます。
- 輸入信用状に関する手数料についてはお取引店へお問い合わせ下さい。

6 サービス時間

※金融機関営業日(平日)の下記時間においてご利用可能です。

取引区分	金融機関営業日(平日)
海外送金 (仕向け)	照会 8:00-23:00
	送金(当日扱) 8:00-14:00
輸入信用状	送金(予約扱) 8:00-23:00
	発行 8:00-23:00 条件変更 8:00-23:00

※原則、14:00までに受付した海外送金取引は、当日中に送金代わり金の引き落とし手続きを行います。対外発電作業は、受付時間・金額・海外市場の休場等により翌営業日以降の扱いとなる場合もありますのでご了承ください。詳しくは市場事務管理センターへお問い合わせ下さい。

ほくと外為Webサービス

※ほくと法人IBサービスのご契約及びご利用が前提です。

月額
利用料金 **1,080円** 税込



くわしくは、お近くの窓口または下記電話番号までお問い合わせ下さい。

- 地方創生部 海外・成長産業推進室 TEL 018-837-1701(受付時間:平日9:00-17:00)
- 市場事務管理センター TEL 023-633-2794(受付時間:平日9:00-17:00)

北都銀行

A MEMBER OF FIDEA GROUP
H28.6 個営承認